

人吉市議会議長 宮原 将志 様

厚生委員会委員長 徳川 禎郁

## 「市民と議会の意見交換会」実施報告書

このことについて、「市民と議会の意見交換会」を実施しましたので、人吉市議会「市民と議会の意見交換会」実施要綱第8条第1項の規定により提出します。

開催日時	令和6年7月2日（火）午後6時30分～午後8時
会場	堤病院5階 多目的ホール
出席議員	【委員長】 徳川禎郁（統括・座長） 【副委員長】 西 信八郎 【委員】 福屋法晴、井上光浩（記録者）、村上恵一（司会者）
団体名	熊本県看護協会県南4支部
参加人数	9名
テーマ	○人吉（球磨）の看護・介護の現状と今後の見通し ○看護師不足による地域の医療・看護・介護への影響について ○消滅自治体にならないための看護師確保への取り組みについての提案 外
意見交換会の概要	熊本県看護連盟県南4支部 支部長 藤野みつ子氏と徳川厚生委員会委員長からの挨拶の後、出席者の自己紹介を行い、意見交換を開始した。 まず、藤野支部長から ○人吉・球磨の看護の現状と課題について ○看護師不足による地域の医療・介護への影響について ○消滅自治体にならないための看護師確保への取り組みについての提案 等について説明を受けた。 日本の病床数は、OECD（経済協力開発機構）の中でも飛び抜けて多いことを踏まえ、国は国民医療費の削減策のひとつとして、療養病床数（介護を含む）削減の方針を打ち出している。 看護職員を増やす国の政策は、看護系の大学及び入学定員数が増えているのが現状であり、看護職は学位を持った方が卒業してきている

時代に突入している。

一方、准看護師は減少傾向にあり、2002年4月は全国的に463校あった准看護師の学校が、2022年には200校と半分以下となっており、これは、准看護師の養成数の減少につながっている。

人吉市では人口当たりの病床数が多く、100床当たりの看護職員数が全国平均より少なくなっている現状であり、加えて、看護師の就業場所については、病院勤務が一番多いが、介護福祉施設と訪問看護ステーション勤務が増加してきているとの現状説明もあった。

令和2年時点で、人吉球磨地域で825人の方が看護師として働いておられるが、看護師と准看護師の割合は全国平均で8対2であるのに対し、人吉球磨においては、ほぼ5対5となっており、日本中探してもこのような地域はないとの説明もあった。

資料説明の後に、5医療機関の看護師6名の方から人手不足などの現場の課題について、意見発表があり、

○現場に若い看護師が不足している。

○古里で働くことにつながる市独自の奨学金制度の創設が必要である。

○復職支援や定着支援策の充実（住居の確保等）させてほしい。

○映画「スクール・オブ・ナーシング」等を広報し、看護師育成に役立ててほしい。

などの課題や意見、要望等が出された。

都会に出た看護師が人吉に戻ってきやすい環境整備として、徳川委員長が、「年齢や収入で入居制限がある市営住宅の条件を緩和するよう、一般質問を行っている。」と述べた。

今後は毎年、意見交換会を行いたいとの要望もあった。

最後に、西副委員長の閉会の挨拶をもって閉会した。